20　　本を読むという楽しみ 　文法　入門③　再読文字

①　シ**レ** **レ** 。精　思スルハ多ク　在㆓リ 夜　中㆒ニ。或ヒハ 　　得**レ**タリ 之ヲ。不**レ**ンバ 記セ 則チ 思ヒ 不**レ** 起コサ。 通㆔­ 貫セシ得㆓タルヲ大 原㆒ヲ 後、書モ 亦　易**レ**シ 。㋐所㆓­　以　観**一レ**ル 書ヲ 、㆓ 己　之　疑㆒ヒヲ、②明　己　之　未　達。 見　毎ニ 知リテ 新タニ 、則チ 学　進マン　矣。於㆓イテ **レ** 疑ハシカラ ㆒ニ 有**レ**リテ 疑ヒ、㋑方　是レ 進ムナリ。

【原文】

書　須　成　誦。精　思　多　在　　夜　中。或　静　坐　得　之。不　記　則　思　不　起。但　通　貫　得　大 原　後、書　亦　易　記。所　以　観　書　者、釈　己　之　疑、明　己　之　未　達。毎　見　毎　知　新　益、則　学　進　矣。於　不　疑　処　有　疑、方　是　進。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の漢字を書き入れよ。

書物は道をよく理解した〔　　　〕が暗記し〔　　　〕い。学問を〔　　　〕めるためには、書物を通して〔　　　〕が〔　　　〕いを抱いていなかったことを〔　　　〕たに確認し直すことが必要である。

問二　波線部㋐･㋑の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで答えよ。（現代仮名遣いでよい。）〈4点×2〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　チェック問題　入門③　再読文字

　⑴　次の表を完成させよ。〈1点×8〉

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 盍  （蓋） | | 猶  ・  由 | | 須 | | 宜 | | 応 | | 当 | | 将  ・  且 | | 未 | |
| どうして～しないのか。～したらどうか。 |  |  | 猶ほ～の（が）ごとし | ぜひ～する必要がある。きっと～に違いない。 |  |  | 宜しく～〔す〕べし | きっと～だろう。～のはずである。 |  |  | 当に～〔す〕べし | もうすぐ～だろう。今にも～なりそうだ。～しようとする。 |  |  | 未だ～〔せ〕ず |

⑵　次の書き下し文の傍線部を現代語訳せよ。 〈2点×2〉

1　今将に我が此の志を奪はんとす。（陳玄祐・離魂記）

2　臣の君にふるは、猶ほ子の父に事ふるがごときなり。（漢書）

1〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

2〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問四　傍線部①の解釈として最も適当なものを選べ。〈9点〉

ア　よく考えるためにはぜひとも書物を暗誦する必要がある。

イ　もし暗誦してしまえば容易に書物を理解できるだろう。

ウ　どうして静かに座って書物を暗誦しようとしないのか。

エ　道を理解するためには何度も書物を暗誦したほうがよい。

〔　　　〕

問五 傍線部②について、書き下し文を参考にして返り点と送り仮名をつけよ。 〈9点〉

【書き下し文】己の未だ達せざるを明らかにするなり。

明　　己　　之　　未　　達。

問六 本文の内容に合致するものを選べ。 〈12点〉

ア　書物を読み漁り、自身の知らなかった世界を解き明かそうと努める姿勢こそが、学問による最大の恩恵と呼べる。

イ　書物に触れ、自身の無知を恥じ何事も疑ってかかる態度を身につけてこそ、学問の発展に貢献できるのである。

ウ　書物を読み、自身が当たり前と見なしていたことにまで疑いの心を持つようになってこそ、学問は進歩する。

エ　書物を何度も読み直し、熟考して理解したことを人々に広く伝達してこそ、学問は大成しうるのである。

【解答】

問一　後　易　進　己　疑　新

問二　㋐＝ゆえん　㋑＝まさに〈4点×2〉

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 盍  （蓋） | | 猶  ・  由 | | 須 | | 宜 | | 応 | | 当 | | 将  ・  且 | | 未 | |
| どうして～しないのか。～したらどうか。 | 盍ぞ〜〔せ〕ざる | ちょうど～のようだ。 | 猶ほ～の（が）ごとし | ぜひ～する必要がある。きっと～に違いない。 | 須らく～〔す〕べし | ～するのがよい。　～すべきである。～するはずである。 | 宜しく～〔す〕べし | きっと～だろう。～のはずである。 | 応に～〔す〕べし | ～するのが当然である。  　 ～すべきである。　～のはずである。 | 当に～〔す〕べし | もうすぐ～だろう。今にも～なりそうだ。～しようとする。 | 将に～〔せ〕んとす | まだ～しない。 | 未だ～〔せ〕ず |

問三　⑴　〈1点×8〉

⑵　１＝今にも私のこの志を奪おうとする。〈2点×2〉

　　　　　２＝ちょうど子供が父親に仕えるようなものである。

問四　ア〈9点〉

問五　明㆓ラカニスルナリ 己　之　ルヲ**一レ** 。〈9点〉

問六　ウ〈12点〉

【現代語訳】

書物はぜひ暗誦する必要がある。よく考えるのは多くは夜中に行う。ある時は（昼間に）静かに座ってこれ〔＝熟考〕を得る。（しかし、書を）暗記していなければよく考えることができない。ただ道をよく理解した後には、書物もまた暗記し易い。書物を読む理由は、自分の疑いの姿勢を解き放ち、自分がまだ到達していないということを明らかにすることである。（そこで、自分がまだ到達していないことを）常に認め常に知って新たに深まるならば、学問も進歩するだろう。疑わしくない点に疑いを持って、まさしく（学が）進歩した（といえる）のである。

【書き下し文】

はらくをすべし。するはくにり。ひはしてをたり。せずんばちひこさず。だをたるをせし、もしし。をるは、のひをき、のだせざるをらかにするなり。ににりてたにさば、ちまん。はしからざるにいてひりて、にれむなり。

【補充問題】

問１　「或」（１行目）、「亦」（３行目）の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで答えよ。（現代仮名遣いでよい。）

問２　「釈己之疑」（３行目）とはどういうことか。最も適当なものを選べ。

ア　自分が抱いていた様々な疑いが全て解消されるということ。

イ　自分に対して周囲から向けられた疑いを晴らすということ。

ウ　自分が疑っていなかったことまでも疑ってみるということ。

エ　自分の持っている疑いを一つ一つ解明していくということ。

問３　筆者にとって「書」とはどのようなものか。最も適当なものを選べ。

ア　自分よりも優れた人物が明らかにした知恵を授けてくれるもの。

イ　自分の未熟さを実感させ、常に新たな疑問を抱かせてくれるもの。

ウ　自分だけでは解決できなかった疑問の答えを示してくれるもの。

エ　自分と同じ疑問に直面した偉人の言葉に出会わせてくれるもの。

【補充問題解答】

問１　或＝あるいは　亦＝また

問２　ウ

問３　イ